

表 令和6年 11 月の火山現象に関する特別警報、警報、予報及び情報の発表履歴

火山名	特別警報、警報 及び予報の状況	発表した火山現象に関する 特別警報・警報・予報・情報等		概要
桜島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 3、 入山規制)	解説情報 第 89～97 号	1 日、4 日、8 日、11 日、15 日、18 日、22 日、 25 日、29 日 16 時 00 分	噴火活動が継続。南岳山頂火口の爆発、噴火、噴煙、大きな噴石、火映の状況。昭和火口では噴火及び火映は観測されず。現地調査による火山ガス（二酸化硫黄）放出量は 2000～4700 [t/日]（10 月 28 日、7 日、21 日）で非常に多い。火山性地震、微動の発生状況。GNSS 連続観測では、島内の基線で 1 月頃から山体収縮のわずかな縮みがみられる。始良カルデラ（鹿児島湾奥部）を挟む基線では長期にわたり地下深部の膨張を示す緩やかな伸びがみられる。始良カルデラ深部にマグマが蓄積した状態、火山ガスも概ね多いことから、今後も噴火活動が継続すると考えられる。
		降灰予報(速報)	23 日 01 時 12 分	噴火発生から 1 時間以内に予想される、降灰量分布や小さな噴石の落下範囲。
		降灰予報(詳細)	23 日 01 時 24 分	噴火発生から 6 時間先まで（1 時間ごと）に予想される降灰量分布、降灰開始時刻。
岩手山	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、 火口周辺規制)	解説情報 第 14～18 号	1 日、8 日、15 日、22 日、29 日 16 時 00 分	傾斜計、ひずみ計、GNSS 連続観測で、2 月頃から山体深部の膨張を示す変動を観測。JAXA の「だいち 2 号」の観測データ（10/24、29、11/7、12、29）を用いた国土地理院による SAR 干渉解析で、大地獄谷周辺に衛星に近づく変動が見られ、付近のごく浅部の膨張と考えられる。黒倉山付近の微小な火山性地震は、10 月下旬以降頻度がやや高まっていたが、7 日以降は低下した状態。その他の岩手山周辺の地震活動に大きな変化はない。西岩手山（大地獄谷・黒倉山から姥倉山）の想定火口から概ね 2 km の範囲に影響を及ぼす噴火の可能性はある。
浅間山	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、 火口周辺規制)	解説情報 第 88～96 号	1 日、4 日、8 日、11 日、 15 日、18 日、22 日、25 日、29 日 16 時 00 分	火山性地震は 4 月中旬以降増加した状態。3 月中旬からの山体西側の膨張を示す傾斜変動は 5 月以降は停滞。火山ガス（二酸化硫黄）放出量は 300～500[t/日]（10 月 29 日、13、19、27 日）、2023 年 3 月以前より多い。引き続き、火口から概ね 2 km に影響する噴火の可能性はある。
薩摩硫黄島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、 火口周辺規制)	解説情報 第 46～49 号	4 日、11 日、18 日、25 日 16 時 00 分	火山性地震は少ない状態。火山性微動はなし。GNSS 連続観測では、山体の膨張を示す変化はない。長期的には熱活動や噴煙活動が高まった状態が続く、火口周辺に影響する噴火の可能性はある。
口永良部島 (次頁へ続く)	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、 火口周辺規制)	解説情報 第 90～92 号	1 日、8 日、15 日 16 時 00 分	火山性地震は、古岳火口付近浅部でやや多く新岳浅部では少ない状態。GNSS 連続観測では、2023 年 6 月下旬頃から同年 11 月頃にかけて古岳付近の膨張を示す変動が観測され、現在も膨張した状態が維持されている。火口付近浅部でやや活発な地震活動、火山ガス（二酸化硫黄）放出量や古岳の地熱活動は 2023 年 6 月からの活動以前より高まった状態。新岳及び古岳火口の周辺に影響する程度の噴火の可能性はある。

令和 6 年11月 地震・火山月報（防災編）

(前頁の続き) 口永良部島	噴火予報 (噴火警戒レベル 1、 活火山であることに留意)	噴火予報	20 日 11 時 00 分	火山性地震が減少しその他の観測データにも特段の変化はない。火山活動は低下し、新岳及び古岳の火口周辺に影響を及ぼす噴火の可能性は低くなった。
		解説情報 第 93 号	20 日 11 時 10 分	火山性地震は 8 月中旬頃から減少。火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は少ない状態。その他の観測データにも火山活動の活発化を示す変化は認められない。以上から新岳及び古岳の火口周辺に影響する噴火の可能性は低くなったと判断。古岳付近を中心に火山性地震がやや多い状態で経過、今後の活動の推移に留意。
諏訪之瀬島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、 火口周辺規制)	解説情報 第 51～54 号	4 日、11 日、18 日、25 日 16 時 00 分	御岳火口で噴火活動が継続。爆発、噴煙、火映の状況。大きな噴石の飛散は観測されず。集落(火口から南南西 3.5km)で時々降灰あり。火山性微動は主に噴火に伴って発生。島の西側近で火山性地震が 13 日に一時的に増加、島内で震度 1 が 1 回あり、その後は減少し少ない。GNSS 連続観測では、島の西側深部のマグマ蓄積量増加と推定される変動はない。長期に噴火活動が継続し御岳火口周辺では大きな噴石が飛散する可能性がある。
		降灰予報(速報)	16 日 01 時 22 分	噴火発生から 1 時間以内に予想される、降灰量分布や小さな噴石の落下範囲。
		降灰予報(詳細)	4 日 13:21, 15:19, 16 日 01:34, 02:14, 12:26, 14:35	噴火発生から 6 時間先まで (1 時間ごと) に予想される降灰量分布、降灰開始時刻。
霧島山 (新燃岳)	噴火予報 (噴火警戒レベル 1、 活火山であることに留意)	解説情報(臨時) 第 1～3 号	24 日 06 時 20 分 24 日、25 日 16 時 00 分	10 月下旬頃から火口直下で火山性地震が増加、23 日からさらに増加し 24 日 15 時までの 24 h 79 回、前 10 日間 233 回。23 日の現地調査で、新燃岳西側斜面割れ目で地熱域に特段の変化はなく噴気は認められなかった。噴煙や地熱域、地殻変動の状況に特段の変化はないが、今後火山活動がさらに高まる可能性がある。
		解説情報 第 4～5 号	27 日 16 時 10 分 29 日 16 時 00 分	火口直下の火山性地震が増減を繰り返しながらやや多い状態で経過。新燃岳火口の噴煙及びその周辺の地熱域の状況に特段の変化はなく、傾斜計、GNSS 連続観測でも特段の変化はないが、今後の火山に関する情報に注意。
十和田	噴火予報 (噴火警戒レベル 1、 活火山であることに留意)	解説情報 第 1～3 号	22 日 13 時 50 分 23 日 10 時 00 分 27 日 11 時 00 分	22 日 11 時頃～20 時頃、中湖付近で深さ 6 km と推定される火山性地震が一時的に増加し、同日 228 回。21 時以降は少ない状態だが、M 2 程度が時折発生、26 日には、M2.9 で震度 1 (青森県三戸町)。低周波地震や火山性微動は観測されず、地殻変動や監視カメラでも特段の変化はないが、今後の火山活動の推移に留意。
秋田駒ヶ岳	噴火予報 (噴火警戒レベル 1、 活火山であることに留意)	解説情報 第 1 号	10 日 09 時 25 分	10 日 7 時頃から山体の北側で火山性地震が増加。震源は男女岳の北約 3 km 深さ約 1 km と推定、9 時までに 129 回。地震活動以外の観測データに変化はないが、今後の活動の推移に留意。
白山	噴火予報 (噴火警戒レベル 1、 活火山であることに留意)	解説情報 第 1 号	5 日 09 時 00 分	4 日 19:21 に山頂付近やや深部の M4.2 の地震で震度 2 (高山市荘川町)。その後に地震が多発し 4 日 335 回、5 日 08 時まで 69 回と減少。この領域では過去にも時々地震活動の活発化があった。火山性微動やごく浅部の地震は観測されていない。

注 1) 表中、解説情報とは「火山の状況に関する解説情報」のことである。

注 2) 岩手山、浅間山、桜島、薩摩硫黄島、口永良部島、諏訪之瀬島においては、噴火警報を発表している間、毎日 02 時から 3 時間毎に 8 回降灰予報（定時）を発表している。口永良部島では、20 日 8 時で発表を終了した。